

総務省の事業を活用し、地域の持続可能な一次産業を目指す

【設立の経緯】

- ・都農町ひょうすんぼ協同組合の理事(事務局)を務める兒玉徳道さんは、大学卒業後、関東で就職・起業していたが、将来、実家がある宮崎県門川町で後継者として就農を考えており、下地作りのため都農町の地域おこし協力隊員に応募。
- ・協力隊では、漁業の担い手不足解消に向けた取組を行っていたが、町内の一次産業全てにおいて人材不足が顕著であると感じていた。
- ・同時期に、県内の「特定地域づくり事業協同組合制度」を活用した労働力確保の取組に関する新聞記事の掲載があり、漁業協同組合代表理事とともに町長へこの制度の活用を要請し、令和6年3月に「都農町ひょうすんぼ協同組合」を設立。

【取組の概要】

- ・組合員は、水産加工場、養殖業、農業、農産品加工業など9事業者が登録し、職員については町内居住者8名、町外からの通勤者4名が在籍。
- ・派遣に当たっては、職員それぞれの意向を尊重し、メインとなる派遣先を決定。

【今後の事業展開】

- ・現在は、加盟組合員の件数と職員の稼働状況に均衡がとれているため現状維持を考えているが、組合の認知度が上がり、他の町内事業者からのニーズが高まれば職員数を増やすなど事業を拡大していきたい。
- ・町内の一次産業を持続するため、一次産業に関するプロフェッショナル集団となり、組合としても持続できることが重要である。
そのために、独自の支援基金を創設し各事業者の担い手を育成していきたい。

【派遣社員就労状況例】

職員名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A	← ぶどう栽培 →						← 花栽培 →				← 花 →	
B	← 卸 →				← 養殖業 →							
C	← 水産(加工) →		← 野菜栽培等 →									

ぶどう栽培

花栽培

花

卸

養殖業

水産(加工)

野菜栽培等

【派遣先企業】

都農町漁業協同組合



- ・都農町では、新たな産業創出に向け獲る漁業とあわせて育てる漁業を展開。
- ・組合としては、年間を通した養殖施設の管理やデータ処理の担当として、ひょうすんぼ協同組合から2名の職員を受入。

株式会社都農ワイン



- ・原料ぶどうの栽培からワインの製造までを一貫して行っており、8月から9月が、収穫、醸造の最盛期となる。
- ・ぶどう栽培については、2月から9月までの剪定、芽かき、誘引、収穫作業が継続しており、その間の労働力確保のためひょうすんぼ協同組合から2名の職員を受入。